

宮上 光祐●著

# 『初めて学ぶ脳神経疾患の漢方診療 —おもな漢方処方と治療報告—』

書評者

松村 明（筑波大学教授・脳神経機能制御医学）



本書の序文にも書かれているが、「西洋医学」を学んできた者にとって「漢方医学」は個人の体質・特徴を重視した全人的医療であることからやや理解しにくい面がある。特に全身的な診察の後に「証の決定」を行ってから薬剤を決定していくプロセスは西洋医学にはないものである。

一方、日本では「漢方」は古くから取り入れられており、西洋医学の Evidence based Medicine とは異なり、Experience based Medicine であるとも言われている。すなわち、個人の医師の経験に基づいて患者さんへの投薬を決定し、病態の変化に応じて薬の処方をきめ細かく変えていくような手法なども使われている。

本書は西洋医学、特に脳神経外科診療や研究に長年携わってこられた宮上教授が自らの Experience を積み上げて

集大成としてまとめあげられた「脳神経疾患の漢方診療」の入門書であり、初心者にも非常にわかりやすいように疾患名や症候によって章がまとめられている。これまでの自験例と文献的考察がまとまった形で各章が簡潔に記載されており、外来に常備しておけばその場で使えるように非常に便利な形で構成されている。

また、漢方の総論についても冒頭に簡潔にまとめられており、これから漢方を本格的に勉強する際に、はじめて漢方に取り組んでみようと思ったときに、最初に勉強する基本的な考え方を理解するにはたいへんわかりやすくできており、取り組んでみようと思いが沸いてくる。

西洋薬のみでなかなか十分な治療効果が得られないような脳神経疾患特有の頭痛、めまい、外傷性頸部症候群、

神経因性膀胱などなど、多くの病態で漢方が有効なことがある。

このような病態に対して手さぐりで漢方薬を開始されている医師の方も多いいと思われるが、本書を診察室に備えて診療にあたれば、宮上氏のこれまでの数多くの Experience を一緒に共有しながら自信を持って治療経験を積むことができ、たいへん役立つ実用書であると思われる。

本書は脳神経外科医、神経内科医、総合内科医はもとより、その他神経疾患にかかわっている多くの分野の医師にお勧めしたい良書である。

B5 頁 115 2009 年 新興医学出版社刊  
定価 3,150 円（本体 3,000 円＋税 5%）  
[ISBN978-4-88002-686-2]